

# デジタル通貨の未来

先月号(Vol.13)のお便りコーナーにBitcoinは新たな通貨になり得るかという質問があった。回答は「否」である。そしてその後、この問題に関して追加で討議したので記事の形で紹介したい。

知らない人にざっくり説明しておく、Bitcoinは分散型のデジタル通貨である。中央統御システムが存在せず、「誰が誰にいくら支払ったか」という記録だけを延々取り続ける。その記録はユーザ全体に共有される。システムの維持にはかなりのコンピュータ処理能力が必要で、それを提供するユーザはある程度の報酬を受け取る。この報酬は誰かが支払うのではなく、新たに作り出される通貨である。処理能力あたりの報酬は自動で調整され、ほどほどの量の通貨だけがシステム内に存在する様に案配される。

この通貨は誰かにインターネット上の買い物の代金として渡す事ができる。またドルやユーロとも相互に兌換できる。ただしレートは変動制で、Bitcoin1単位が将来いくらになるかは完全に相場次第である。

以上を踏まえた上で、なぜこれが新時代の「通貨」と化す事が不可能なのかを論じよう。

そもそも「お金」に関する混乱の元は、我々が「現実の資産」と「仮想の資産」を一緒くたに考えている事である。例えば我が家の蔵に2000キ口の米があるとする。これは「現実の資産」であり現実の貯蓄である。家の住人はいつでもこれを引き出して食べる事ができる。一方、タンスに現金があったとすると、これは「仮想の資産」である。我々は紙幣を食べる事はできないし、金を燃やして魔術的な力で米を作り出す事もできない。米屋に持って行って米と交換してもらうのみである。つまりこれは米屋の倉庫にある「現実の資産」への請求権である。

共同体全体で考えると分かりやすい。我が家と米屋にそれぞれ2000キ口の米があったら、共同体は4000キ口の米を利用できる。米屋に2000キ口あって我が家にそれを全部買えるだけの金があったら、利用できるのは2000キ口である。米屋の米が我が家に移動するだけだからである。米屋がその金で別の共同体から米を買って来たとする、それは買い付け先における利用可能量の減少を伴う。どれほどの金も世の中に存在しようと惑星全体として利用できる資源の量は変わらないのである。

「米屋に米を請求できる権利」としての金は「誰かが金を持って来たら米を渡す」という米屋の側の負債構造とセットでしか存在できない。仮想の資産は必ず同額の仮想の負債を伴うのである。ポケットの中にある金は全て誰かの負債であって、それを負債と考えて債務を履行する人々によって成り立っている。

倉庫の中の食糧や原料、工業製品、道路や電線などのインフラ、知識、情報、システム、顧客リストなどは全て「現実の資産」である。自然や共同体内の信頼関係も値札は付かないが現実存在する資産である。現金、預金、債権、株、ストックオプションなどは「仮定の資産」である。仮定の資産には必ず同額の負債が伴っている。これらを新たに作り出した時、貸借対照表上には同額の負債が生ずる。事実、我々の使っている紙幣(正確には銀行券)は会計上日本銀行の負債である。

ここで最初の話に戻ると、Bitcoinには非常に大きな問題がある。これは負債を創造していないのである。「誰かがBitcoinを持って来たら定められた量の純金や外貨を渡す中央銀行」や「Bitcoinを納税義務の履行手段として受理する政府」はどこにも無い。つまり仮定の資産だけが生み出されて、仮定の負債を引き受けている人間がいないのである。

Bitcoinは確かに世界に価値を加えている。低コストの決済という利便である。この利便は「現実の資産」であって、負債を伴わずに創造できる物である。一方でこのシステムはデジタル貨幣という「仮定の資産」をも生み出しており、こちらは同額の負債が伴わねばならない。

決済手段の創造と通貨の発行は全く別の仕事である。Bitcoinは前者には成功し得るが後者には失敗する。それは負債を創造していないからである。国民国家は負債を創造する。我々は税や健康保険料を円建てで支払わなくてはならない。医療費も保険点数で定められた円決済である。印紙代も役所の手数料も円建てである。我々は日本に暮らしている限り常に円を必要とする「欠損」の状態に置かれる。その欠損を埋める為に円を稼ぐ。つまり誰かに仕事や物を提供して円を受け取るのである。

貨幣経済は借金を埋める力で回っている。「もう金は充分稼いだ、働くのはやめよう」と全ての人が思ったら通貨は通貨である事をやめる。将来の支払いに備えるにせよ、過去の支払いを清算するにせよ、「もっと金が必要だ」と思う人がいるから通貨は受け取られる。

Bitcoinはどこかの時点で対ドルレートを固定せざるを得なくなる。共同管理の基金を作って兌換に応じるのである。そうでなければ、システム内の人々が雪崩をうって外貨への兌換を希望した時にBitcoinを買い支える者が誰もいなくなってしまう。これによってBitcoinは通貨としてはドルのサブシステムになる。かつてPaypalが新たな通貨になる事を目指し、結局はドル・円・ユーロ・ポンドなどに基づく決済手段に落ち着いたのと同じである。

あるいはまた、従来通り変動レートの「Aコイン」と対ドル固定の「Bコイン」を并存させて、この2つを相互に為替で動かすのも良いかも知れない。これはオンラインゲーム世界の仮想通貨でしばしば使われる手法である。Bitcoinは決済手段としては大いに前途がある。ただ単に、国民国家が発行している様な独立した通貨と化す事が不可能だというだけである。